

# 第三者評価結果 公表シート

(このシートに書かれている内容は、そのまま富山県福祉情報システムにおいて公表されます。)

事業所名：富山市立清水保育所

第三者評価機関名：社会福祉法人 富山県社会福祉協議会

評価確定年月日：平成 28 年 3 月 18 日

## 1. 概評

### ◇ 特に評価の高い点

#### 1. 職員の質とチームワーク

・職員一人ひとりが、所長を中心に話し合い、工夫をこらしながら日々の保育に従事している。街の中心地に位置し、駐車場や園舎も十分な広さが確保できない中、「ハード面の弱さをソフト面でカバーするように」とのことで、常に職員間の話し合いがなされ努力している。所長はじめ職員の保護者に対する対応の仕方、一人ひとりの子どもを重視した保育は、管理者としてのリーダーシップと職員の質の高さのあらわれであろうと思われる。

#### 2. 保育の工夫

・狭い保育室では十分な遊びのスペースがとれないため、遊戯室を工夫して使用している。各コーナー(ハンバーガー・ケーキ・アイスクリームなどのお店やさんコーナー、和紙を使用した水彩絵コーナー・おしゃれコーナー・絵本コーナー・楽器コーナーなど)を設置し、子どもたちが自由に楽しめるようになっている。遊戯室を囲むように保育室があるので、既存の構造を上手く工夫している。

・自分たちで収穫した落花生の実やツルをクリスマスの飾りに利用するなど、子どもたちの創作意欲を高める保育展開である。苗から植えた野菜の収穫、そしてそれを利用しての食事、作品制作など長期にわたる保育過程を経ていることが子どもの感性、満足感、食育に大きな効果を与えている。

## ◇ 改善を求められる点

### 1. 駐車場の確保

・当保育所には駐車場がなく、送迎時は近隣の道路に車を止め、順番となるため常に待ち時間が生じている。保護者にとっても職員にとっても悩みの種であろう。保育所では、スムーズに事故なく送迎ができるようにと常に配慮しているが、仕事を持つ保護者は、時間が気になる。また、送迎時に保護者間や保護者と職員の会話やコミュニケーションが十分取れないという難点も生じている。子どもにとっても危険のないよう駐車場が必要である。

### 2. 事業計画と開かれた保育所作りへの期待

・富山市が作成している「富山市子ども・子育て支援事業計画H27～31 年度」に基づいて、事業の意義を明確にし、職員全体で運営について具体的な目標や行動を考え、地域や保護者などへ説明し、サポートを得て実施及び評価・検証していく事業計画の作成が望まれる。また、保護者からは他の保護者などが「どんなことを考えているのか。意見等は寄せられているのか？」などの意見がアンケートに寄せられている。保育所は、第三者委員などの窓口を設けるなど、ご意見を広く集め、事業計画に反映していくことで、保護者の保育所運営に対する関心と意欲がさらに高まり、安定した運営と開かれた保育所作りが期待される。

### 3. 記録管理体制の規定整備

・当保育所では、子どもに関する記録の管理は職員室で保管されている。しかし、個人情報保護と開示の二つの観点から、規程を設ける必要があると思われる。個人情報の保護に関する法律は、十分に理解し、管理体制も出来ているが、情報開示については、保護者等から開示を求められた際、情報開示の基本姿勢、情報開示の範囲、子どもや保護者への配慮が必要となる。記録管理の責任者、持ち出し、情報開示の際の範囲(保護者・嘱託・パート職員)を規程に定め職員間で共通理解を図ることが必要である。

## 2. 大項目毎の特徴

### 1 運営管理

- ・当保育所には駐車場及び駐車スペースがないため、以前から近隣住民は多少の不満を感じる状況にある。このため理念を含めた事業などについて、近隣住民・関係機関などに説明し、周知と理解を図るよう積極的な取組みを期待したい。
- ・保育内容の振り返り、資質向上を目指し、職員による自己評価と第三者評価を本年度から取り組んでいる。この第三者評価項目と保育内容についての自己評価を年に三回行う予定であり、職員各自が客観的に自身を振り返り、また仲間の気づきを共有できるツールとして、今後も保育所全体で取り組んで欲しい。
- ・職員は、保育所・クラス便りの作成にあたり、保護者のニーズに応え保育活動の様子が具体的に伝わるように写真などを用いたり、細やかな情報を伝えるような工夫に努めている。
- ・保育所では利用者の要望や苦情相談窓口として、第三者委員が配置されている。こういった相談機関の存在や利用方法について重要事項説明書などへ明記され、保護者などが積極的に活用できることが望まれる。
- ・個別懇談会、年齢別懇談会の開催、玄関先などで所長及び副所長がいつでも相談できる環境を整え対応にあたっている。相談には、築き上げた関係機関のネットワークを活用し、迅速かつ親身になって対応していることがヒアリングや記録からも窺える。
- ・緊急時の対応は、マニュアルにも細かに記されているほか、内容ごとに要点を一目で対応手順が分かるように整理され、周知及び整備されている。また、災害時訓練の際は、実施日時は明確にしているものの、出火元などの内容を変更するなどして実際に災害が起こっても冷静に対応がとれるよう実践に即した訓練が行われている。
- ・感染症や食中毒への予防として、手洗いの後のタオル及びハンカチ使用を止め、コスト削減も意識し、子ども仕様に半分の大きさにするなどの工夫も取り入れながらペーパータオルを導入した。
- ・ハード面（構造など）での弱さをソフト面（保育サービスの質）でカバーしていくことを全職員が意識し、管理者である所長は、若手職員の「振り返りノートを活用する」自主的な取組みを高く評価し紹介するなどしており、他の職員への波及効果も見られる。また、嘱託職員の声も汲み取るための会議を開催し就業環境の改善を図り、職員会議のたびに指導計画の評価と併せて職員の悩みや意見にも真摯に耳を傾けるなど、適切な指導が実践されている。

### 2 地域の住民や関係機関との連携

- ・管理者である所長は、多様化する保育環境や相談内容にも対応するべく、地域の関係者や嘱託医との連携、地域のクリニックにある病児保育室を訪ねるなどして知識や情報を収集し、相談・連携を図り、保護者などに情報を提供できるよう努めている。
- ・地域広報誌「広報誌しみず」へ、地域の幼稚園・中学校と共に情報を発信したり、地域の高齢者施設への訪問の実施や地区社会福祉協議会主催の行事へ多数参加するなどして、地域の中へ飛び出して、地域で育つ保育活動を積極的に行っている。

### 3 子どもの発達援助

・縦割り保育を実施し、メリット面を大いに利用し保護者からも支持されている。年齢別保育も充実しており、年齢別会議等で計画を立て、PDCAサイクル※で見直し反省しながら保育を進めている。

・食事も縦割りのグループで行い、バイキング方式を取り入れ、自分で量を加減できるようにしている。また、食ベキリン運動(残さずに食べる)を行い、子どもたちに完食の喜びを感じてもらい、保護者にも知らせるなど食育の意識を高めている。

・調理員は、一緒に食事をとり、子どもたちの嗜好や盛り付け、調理方法の参考にしたりしている。また、今月の旬の食べ物は、果物ということで玄関ホールに柑橘類の仲間を小さい順に並べ、それぞれの名称を紹介し、子どもたちが興味や関心を持つように展示にも配慮が見られる。

・保育室は広いとは言えないが、採光、配色、季節感に配慮され、子どもたちがそれぞれに心地よく生活している。

・保育士が子どもたち一人ひとりに笑顔で接し、やさしく興味ある話しかけに子どもたちも生き生きと受け答えしている。2歳以上児が遊戯室でクリスマスの歌や楽器遊び、フォークダンスを積極的に楽しんでいる様子から、保育士と子どもたちの日常保育の充実が伝わり、温もりが感じ取れる。

・遊戯室を囲むように保育室が配置され、真ん中の遊戯室がオープンスペースとして環境が工夫され、子どもたちが自主的に遊べる各コーナーが設置してある。

・乳児室は0歳・1歳児が過ごし、子ども一人ひとりの発達状況の違いに留意してゆっくり邪魔されず遊べるスペースを確保している。体調・食事・睡眠など保護者と連絡を密にしている。

・年長児が夏野菜(ゴーヤ・なす・落花生・キュウリ・ピーマン・オクラ・ズッキーニ・坊ちゃんカボチャ・ミニトマト)を保育士とつくり、収穫の喜びを毎日記録している。ミニトマトの収穫数を記入し玄関ホールに貼り、保護者にも報告されている。自然とのふれあいから豊かな感性や認識力、思考力が培われている。

・重度の障害を持つ子どもには、専任の保育士がついており、状態を的確に把握し安定した保育を行っている。保育士の対応は、愛情のある細やかな配慮が見られる。

※PDCAサイクル…事業活動における管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan(計画)→ Do(実行)→ Check(評価)→ Act(改善)の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。

### 4 子育て支援

・保護者に対する支援は、保育所にとって重要な役割であることを所長はじめ職員が十分に理解している。保護者一人ひとりの状況に応じた相談・支援を行っている。所長や副所長は、送迎時玄関に立ち、言葉を交わしたり相談を受けたりし信頼関係を築いている。

・近くのクリニック内にある病児保育室と連携を密にし、情報を得たり、保護者に紹介するなどしている。

### 3. 各小項目にかかる第三者評価結果(ABCD評価結果) (別紙)

#### 4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価受審に向け、富山市保育所保育のガイドライン・富山市保育所危機管理対応要領・富山市保健のしおり・新保育所保育指針等を指標とし、全職員で様々な見直しを重ねていきました。一つ一つ明文化していくことで、多くの気づきを見出すことができました。

保育内容については、PDCA サイクルを活かし質の向上と職員間の連携・チームワークを深めることが出来る貴重な機会となりました。

今回、ご指導いただいた事柄については改善に向け努力をしていきたいと思えます。今後も、社会情勢や子育て環境の変化に対応しながら、子どもの育ちや保護者のニーズに真摯に向き合い、地域とともに、子どもの最善の利益のために、日々研鑽を重ねていきたいと思えます。

別紙 各小項目にかかる第三者評価結果（A B C D 評価結果）

大項目		
中項目	小項目	評価

1 運営管理		
(1) 基本方針	①理念及び基本方針が明文化され、職員、保護者、関係者に周知するための取り組みが行われている。	B
(2) 中・長期計画	①中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	B
	②中・長期計画が適切に策定されている。	B
(3) 組織運営	①保育の質の向上や改善のための取り組みを、定期的な自己評価など、職員参加により行っている。	B
	②職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	A
(4) 守秘義務の遵守	①守秘義務の遵守を周知している。	A
(5) 情報提供・保護者の意見の反映	①情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	B
	②保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	B
	③保育サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	A
(6) 安全・衛生管理	①事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されているとともに、事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	A
	②調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	A
(7) 人事管理	①人事管理の体制が整備されている。	A
(8) 経営管理	①予算管理の体制が整備されている。	B
(9) 管理者の責任とリーダーシップ	①管理者の責任が明確にされているとともに、リーダーシップが発揮されている。	A

2 地域の住民や関係機関との連携		
(1) 地域の住民や関係機関・団体との連携	①医療機関・児童相談所などとの相談・連携体制を整えるとともに、その他地域の関係機関に関する情報を収集している。	A
	②小学校、地域団体、地域住民などとの連携、交流が図られている。	A
(2) 実習・ボランティア・保育体験	①実習生、ボランティア、保育体験などの受け入れ体制が整っている。	A

3 子どもの発達援助		
(1) 発達援助の基本	①保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	B
	②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	A
	③一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	④一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。	B
	⑤一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	A
(2) 健康管理・食事	①登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	A
	②健康診断(歯科健診含む)の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	A
	③感染症への対応については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。	A
	④専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	A
	⑤日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	A
	⑥食事を楽しむことができる工夫を保育士がしている。	A
	⑦食事を楽しむことができる工夫を栄養士、調理員などがしている。	A
(3) 保育環境	①子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A
	②生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	A
(4) 保育内容	①子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	A
	②基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	A
	③子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	A
	④身近な自然や社会と関わられるような取り組みがされている。	A
	⑤さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	A
	⑥遊びや生活を通じて、人間関係が育つよう配慮している。	A
	⑦子どもの人権に十分配慮するとともに、互いに尊重する心を育てよう配慮している。	A
	⑧性差への先入観による固定的な観念や役割分担意識を植え付けないよう配慮している。	A
	⑨乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑩長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑪障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	B

4 子育て支援		
(1) 入所児童の保護者の育児支援	①子どもの発達や育児などについて、懇談会や保育参加など保護者と共通理解を得るための機会を設けるとともに、一人一人の保護者と日常的な情報交換や個別面談などを行っている。	A
	②虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、児童相談所などの関係機関に照会・通告を行う体制が整っている。	A
(2) 多様な子育てニーズへの対応	①多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを活動や事業に反映している。	A
(3) 地域の子育て支援	①育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	A
	②一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	